

会員生協からの活動報告

栃木保健医療 生活協同組合

- 組合員数 : 11,745 人(10/31.現在)
- 事業所数 : 有床診療所1カ所、無床診療所1カ所、介護事業所4カ所

私ども医療生協は、診療所や訪問看護など、医療・介護事業活動をすすめています。今年度は経営改善の取り組みと、組合員増やしでは 750 人を目標に、10、11月の強化月間を取り組んでいます。10月3日には組合員・職員合同による学習会



11月1日医療生協健康まつり

を開き、日本生協連医療部会から講師を招き、「『いのちの大運動』と強化月間の成功を！」と題して講演してもらいました。この間、二つの健康まつりを開催し、合わせて 1,550 人の地域の方や組合員が参加し、NHKの取材班が来場するなど、多彩な取り組みになりました。(まつりの企画に出演された方の取材 11/7.am7:30 おはようにつぼんで放送)また、来年の5月にニューヨークで 2010 年核不拡散条約(NPT)再検討会議が開かれ日本からこの会議にむけて、1,000 人規模の代表を送る準備がすすめられています。私たちの医療生協からは1人の非常勤理事を代表として派遣することを決めました。これから強化月間と合わせて募金活動をすすめます。

宇都宮大学 消費生活 協同組合

～学生委員会の取り組みを中心に～

宇都宮大学生協学生委員会(C.C.S.=Coop Creative Staffs)は現在約40人のメンバーで活動しています。主な取り組みは新入生歓迎の企画や冊子作り、ビアホールやクリスマスなどのイベント、環境や平和への取り組みなど多岐に渡っています。中でも最大の企画は毎年秋に行っている24時間耐久レーポウリング大会です。市内のポウリング場を貸し切りにして30チーム(1チーム10人)が交代で24時間ゲームをすることは、今年で24回目を迎える宇大の名物行事となっています。始球式には生協の理事長と大学の副学長も参加し、マスコミからも取材を受けるものです。健康への取り組みとして食堂部と連携した食生活相談会の取り組みや、ユニセフ募金、広島・長崎の原水禁世界大会への参加も行っています。



子育て支援



「わらがき」

10月25日栃木市協同まつりが栃木市総合運動公園で開催され、栃木市の子育てネットワークの取り組みとして、生協関係では「わらがき」と題して、稲わらで遊ぶコーナーを提供しました。ほとんどの子ども達が初体験だったようで、わらの上を裸足になってもぐったり、寝ころんだりして、まるで、わらにまみれた怪獣?「わらがき」のようでした。また、わらの茎を使ってシャボン玉作りに挑戦し、子どもも大人も自然遊びに満喫していました。

とちぎの生協

栃木県生活協同組合連合会

〒320-0052 栃木県宇都宮市中戸祭町821 (栃木県労働者福祉センター6F)

TEL: 028-624-6650 FAX: 028-624-6652

<http://homepage2.nifty.com/tochigikenren/>

2009年 冬号

ごあいさつ 会長理事 竹内明子

12月に入り、2009年も暮れようとしています。今年一年を振り返りますと、政治には変化が走りましたが、社会には哀しい事件がまたも溢れた年でした。

今年はまだ、日本の協同組合の父と呼ばれる賀川豊彦さんが活動を始められて100年目でもありました。賀川さんは人が生きること自体に抱える困難さを和らげる為だけでなく、沸き起こった問題が悪い連鎖を紡ぐのを断ち切る為に協同組合を創設し、人が人としての尊厳を持てる社会をつくることの重要性を説かれ、実践されていました。しかし100年の歳月を経た今なお、人が人として尊厳を持って生きられる社会とは言えません。

10月に生協連の40周年記念事業として、夜回り先生こと水谷修氏の講演会を開催致しました。「子どもたちは今」という演題のもと、水谷さんの語られる子どもたちの現状はとても痛ましいものでした。ドラマではなく実際に、現実として、子どもたちは夜の闇の中で麻薬、暴

力、売春、自らの身体を刃物で傷つけるリストカット等に身を委ね、心も身体も壊しながら苦しみがいているのです。水谷さんはまた、そうした行為に走らざるを得ない子どもたちの置かれている環境についても語られました。その後、会場にいる全ての大人の聴衆に向かっては、何が子どもたちを闇に落とす問題となるのかを、子どもたちを光の中に戻すためには何を考えなくてはならないのかを提起され、中高生に向かっては、何があっても闇の中に行くなど諭されました。そして最後に、良質な大人に会うことが子どもたちにとってどれほど大切なことであるのかを話されました。

この社会を形作っているのは大人です。人が人として生き難い、子どもが守られない社会の現状は大人である私たちが変革せねばなりません。そして私たち協同組合に身を置くものは、そのことをもっと考えて行かなければならないと切に思うのです。

参加
無料

協同組合の父 賀川豊彦献身100周年記念講演会

～協同組合の価値とめざすもの～

DVD「愛と協同」
上映予定

賀川豊彦(1888～1960)

日本の近代化の過程で、社会の直面する諸問題を自らの身に負い、とりわけその中で苦しんでいる社会的弱者のために、生涯を捧げた人でした。21歳の賀川は、当時日本最大のスラムに住み、さまざまな救済活動を広く展開し労働者の団結権が認められていなかった時代に、労働組合の必要を訴え、貧しい小作農のために農民組合を創設し、さらに協同組合運動の建設者・推進者としても大きな影響を与えました。ノーベル平和賞候補にもなりました。

講師: 加山 久夫 氏

(賀川豊彦記念・松沢資料館 館長)

日時

平成21年12月17日(木)
10:00～12:00

会場

とちぎ男女共同参画センター
(パーティ)301研修室

主催

栃木県生活協同組合連合会

どなたでも参加できます

生協の 食の安全の取り組み

生活クラブ生活協同組合 では、「安全・健康・環境」生活クラブ 10 原則に基づいて、提携生産者、組合員のおたがいが、自分たちで決定した「自主基準」にもとづく厳しい生産管理を行っています。それを確かめる

活動として「おおぜいの自主監査」を実施しています。「おおぜいの自主監査」とは、組合員自らが生産現場を訪問し、事前学習に基づき製造環境や製造工程を確認するという、組合員参加の取り組みです

とちぎコープ生活協同組合 では、秋から「お茶会」が始まり「組合員のくらしのおしゃべり」が行われます。約4万人からの参加でくらしの情報が集まり、食を守る上で大切な情報となります。業務では配送や店舗の売場で日常から商品の管理を強化しています。

日本生協連では昨年の餃子中毒事件以降、リスクに応じて商品開発から組合員に届くまでの品質・安全管理を強化し、事故の予兆把握と被害の拡大を防止するための 11 分野、163 項目の課題に取り組んでまいりました。これまでの課題や追加項目などを整理し、この再構築体系も 2009 年 6 月よ

り第2ステップへと入りました。新たに、有識者・専門家などで構成する「品質保証評価委員会」を設置し、評価と助言をいただきながら進めています。商品の開発・生産から組合員の食卓に届くまで、リスクを洗い出しそれを管理する「食品安全マネジメントシステム」に順規して管理を進め、商品検査・製造工場点検などもこれまで同様に強化しすすめ、事故の予兆を捉え拡大を防ぐ全国情報システム「クイックプロ」もスタートし、インターネットでのコミュニケーションも充実しました。

とちぎよつ葉生活協同組合 厚生省認可の特保食品は誰もが安全だと思います。しかし、特保認定の食用油に発がん物質を生成する可能性のある物質が高い値で含有されていると自主回収されました。よつ葉生協でBDFの原料となる食用油を回収しましたが、使用していない油が箱ごと届けられました。油は油ですが、一昔前は大豆・菜種・米・紅花などの原料になる植物の名前でした。絞り方も薬品で溶かす方法になっています。原料も遺伝子組み換えが主になり、国内産は米以外ほんのわずかです。しか

も大豆油は、味噌や醤油に再生できる溶かし方もしています。問題になった1つの油から、油の絞り方、原料の国内産の少なさ、など課題がたくさん見えてきました。油を絞る時に使う溶剤のノルマルヘキサンは、接着剤にも広く使われているようです。昔ながらの压榨法は貴重になっています。この間、組合員と醤油・味噌・油の昔ながらの製造と現在の作り方の違いを勉強しました。

と

食育の取り組み

生活クラブ生活協同組合

生産者交流会や「生活クラブ cooking 素材を見直そう!」と題した調理講習会を実施しています。生産者交流会は取り組んでいる生産者に、その材の特徴や市販品との違い、製造に対する思いなどを語っていただきます。また、材の特徴にあわせた使い方など幅広い学習を行います。「生活クラブ cooking 素材を見直そう!」は、組合員が講師で生活クラブの素材を中心にした調理講習会です。素材が使いこなせると、様々な料理を作ることができ、経済的なくらしにつながります。また、試食しながらの情報交換も楽しく行っています。

とちぎよつ葉生活協同組合

今年の活動のテーマが『地産地消、笑顔でかむ内ご飯』です。「内ご飯」は手作りしてご飯(米)を食べましょうということです。組合員活動で玄米・白米・雑穀入りを食べ比べしています。昨年、国内産を食べようと盛り上がった割りに自給率が41%に留まったのは、お米を食べる量が減っているからです。3食ご飯を食べて、主菜は魚で副菜を和風にするると80%になります。毎日食べても飽きないのがお米です。赤ちゃんが離乳食で一番最初に食べるのがお米です。一番身近にあり、人生80年、90年を毎日食べ、命をつないでいくお米。身近にありすぎて、お米の尊さを忘れてしまっているような気がします。お米を食べようということは、日本の食糧を考えようということにつながります。

とちぎコープ生活協同組合

食育の取り組みをするうえで、子どもたちが体験することを大切に考え、子どもたちの生きる力が身に着くことを目指し、生産者の皆さんにご協力をいただきながら小山市(JAおやま青年部)と大田原市(那須山麓土の会)の2ヶ所で、家族ぐるみで稲作体験することを中心に年間通して行っています。これらの企画は1990年から実施しています。20組の家族を春に募集し、田植えから草刈り、収穫まで体験します。大田原の取り組みでは、稲作以外に子どもたちがお料理づくりをして包丁の使い方や米をとぐことを体験して食の伝承をします。また、さつま芋や大豆の栽培をして収穫の喜びや自給率のことなどについても学んでいます。夏に田んぼを流れる小川で行われる生き物調査では、楽しく生物の多様性について学びます。生産者の皆さんとも交流をして農家の暮らしについても学びます。参加した両親からは「毎回参加するたびに子どもがたくましく変わっていく姿に驚いています。」との感想が寄せられています。



田植えの様子

TOPICS

第12回栃木県内協同組合関係者交流会を行いました

毎年1回、栃木県内の協同組合関係者交流会として、学識者、JA関係者、生協関係者などが学習と交流を行っています。今年は12月2日に宇都宮市内で開催されました。

日本の協同組合に貢献された賀川豊彦献身100周年という節目でもあり、賀川豊彦の人となり、協同組合運動への関わりを改めて学び、今日の新たな貧困などの状況も受けて、協同組合としての原点を考える良い機会となりました。



今年も
出展しました!

宇都宮市食育フェア

10月4日(日)宇都宮城址公園にて開催。テーマ「地産地消で、1日の食事メニュー」という内容で、一つのテントで3地域生協が展示とクイズなどを行いました。テントを訪れる人も切れることがなく、年齢層も幅広いものとなりました。



昼食

〈とちぎコープ生協〉
じゃがいもの栄養素の見直しとじゃがいもを活用した朝食メニューの提案とじゃがいものクイズ

朝食

〈とちぎよつ葉生協〉
バランスとカロリーを考えたお弁当づくり、日本食のバランスの良さ、主食としてのお米の大切さなどを提案

夕食

〈生活クラブ生協〉
1日のカロリーとバランスを考えた夕食づくりの提案